



第7回キャリア教育産学官交流会 in 中川村
実施報告書

【テーマ】



みんなで育てよう

地域の子ども 郷土愛

～with コロナ時代の ふるさとの未来づくりをどうするか～



令和2年 10月 19日

- 1 目次
- 2 概要
- 3 会長挨拶 開催地挨拶 来賓挨拶
- 4 フィードバックインタビュー 総括
- 6 基調提案
- 8 感想
- 12 郷土愛通信・広報かみいな



概要

第7回キャリア教育産学官交流会



- 1 目的 産学官の交流を通して、上伊那地域（家庭、住民、学校、産業界、行政）が一体となり、ふるさとを舞台にしたよりよい次世代育成と地域づくりを推進する機会にする。
- 2 日時 令和2年10月19日（月）13：30～17：00
- 3 会場 中川村文化センター（主会場）※来賓等会場参加
アルラ（副会場） PC 接続環境確保のために副会場設置
- 4 主催 郷土愛プロジェクト
- 共催 中川村教育委員会 後援 中川村、中川村商工会、上伊那教育会、
（一社）駒ヶ根青年会議所 （一社）伊那青年会議所
- 5 参加人数 産業55人、学校45人、中学生62人、行政65人、地域18人
合計245人（うちオンライン参加172人・会場参加73人）



6 内容

- (1) 挨拶 郷土愛プロジェクト 会長 向山 孝一
開催地中川村代表 村 長 宮下 健彦
来 賓 長野県副知事 太田 寛
- (2) 基調提案 ◎テーマ～私たちの大好きな中川村から、
とびっきりの夢と幸せをお届けします～
「中川村で0円食堂」「中川そぞろ歩き」等
中川中学校 教頭 高宮明親＋中川中学校3年の皆さん
◎テーマ「黄金のお米作り（アイガモ農法）」
～アイガモとともに米作りした子どもたち～等
中川西小学校6年 教諭 上條 菜々美
保護者 大島 歩/松原 沙織
- (3) 人形浄瑠璃上演 ～傾成阿波鳴門 順礼歌の段～
中川西小学校人形クラブ＋中川人形保存会の皆さん
- (4) フィードバックインタビュー
宮田村役場 係長 保科 靖国
伊那弥生ヶ丘高校 教諭 小川智道＋生徒の皆さん
- (5) 講 評 信州大学 学長 濱田 州博
中川村教育委員会 前教育長 下平 達朗
万 歳 中川村教育委員会 教育長 片桐 敏男



7 司 会

- セレモニー
中川村教育委員会 高柳 康広/長尾 紗妃
- グラフィックレコーディング
箕輪町社会福祉協会 西澤 智美
- 共有セッション
郷土愛プロジェクト 田畑 和輝/傳田 智子



挨拶



郷土愛プロジェクト会長 向山 孝一

人口約 5000 人の中川村からの第 7 回キャリア教育産学官交流会、今回は、オンラインでの開催という初体験です。第一次、第二次、第三次産業で働く大人の皆さん、学校で学ぶ児童生徒の皆さん、行政の皆さん、地域の保護者の皆さん、それぞれ参加して、私たちの伊那谷の未来を背負っていく若者を一緒にみんなで育て上げよう、その舞台を用意しようという思いで活動が始まったのが、この郷土愛プロジェクトです。

上伊那でどのような人材育成が行われているのか、現場に行って確認しながら、これまで 6 つの市町村でこの交流会を開催してきました。みんなで作るこの舞台に、たくさんの子供たちに上がってもらい、彼らの輝く目を何度か見てきました。そこには必ず、輝く大人たちがいました。素晴らしい活動をしている大人たちと、好奇心いっぱいの子供たちが触れ合うことによって、子供たちが素晴らしい目つきになります。そこに、予想もしなかった化学反応がおきます。故郷の歴史を知り、私たちの親や先祖が大事にしてきた価値を体験、学ぶことによって、郷土への愛が生まれるということも、これまでたくさんの舞台で経験してきました。

今回は、オンラインという限られた中での開催になりますが、おかげさまでたくさんの方々が参加してくださっています。今日まで、大きな努力をして開催にこぎつけてくださった中川村の皆さんに、心から御礼申し上げます。楽しく有意義な舞台を、一緒に作りましょう。



中川村 村長 宮下 健彦

中川村での開催に御礼申し上げます。多くのご来賓、皆さんに参加に感謝しています。

中川にかかっている坂土橋、天竜川にかかって、中川村の東西をつなぐ橋でございます。昭和 7 年に完成して、今日まで現役で働いています。その坂土橋が重要文化財の内定をいただきました。道路、橋として愛されているこの橋を、今の子どもたちがこの歴史を学んでほしいと思います。またこの橋を守り伝えてきた村民の努力を学んでほしいと思います。ぜひこの場から、郷土への愛着を強めてほしいと思っています。今日はそういう意味で中川村を堪能してほしいと思います。



長野県副知事 太田 寛

私は第 3 回からずっと参加して、今回で 5 回目です。最初に参加してあまりに感動してそれから毎回出ています。そのたびに感銘を受けています。この会では先生、親御さん、参加者の皆さんから郷土に対する愛をヒシヒシと感ずることが出来ますさらにこのような取組をもっと県に広げたいと思っています。県としても広げるためになんとか力になりたいと思います。

開催地の中川村に敬意と感謝を申し上げます。坂土橋の国の文化財に内定というのは、地域の誇りであり、こういう風に伝承されていくべきだと思います。この橋は見るだけでなく使っている事に意味があると思います。

今日のマスクは、信大のマスクのナノテクの技術を使っています。非常に心地よいです。参加者の皆さんには、今回のようにコロナの中で開催でき、ニューノーマルな新しい形でできることを実感してほしいと思っています。

フィードバックインタビュー



宮田村役場 係長 保科 靖国

昨年はボンドプロジェクトとして、大人たちが小学生への「挨拶運動」を実施していましたが、今年は、コロナでなかなか出来なかったです。10月から再開でき、元気な子どもたちから「久しぶり！」と声をかけられたり、挨拶されたりして、嬉しかったです。半年ぶりの子どもたちの成長も嬉しかったです。今日も挨拶運動してきました！

キャリア教育でつながる部分で言うと学生の就職活動「就職準備合宿」の企画、司会をしました。上伊那8市町村の皆さんと一緒にできて縦と横にネットワークが繋がっていきの分かりました。



伊那弥生ヶ丘高校 教諭 小川智道+生徒の皆さん

4年前に弥生ヶ丘高校を卒業した生徒が、教育実習生として12名学校に来てくれました。地域の皆さんは、生徒たちがどのように巣立っていくのかつながりが伝わりにくいと思うので、今日は4名の教育実習生に、①今まで（中学⇒高校⇒大学の経緯）と②未来（就職、夢）について話してもらいます。

高坂さん 宮田中学⇒弥生高校⇒都留文科大学⇒県内の金融機関就職

蜷川さん 箕輪中学⇒弥生高校⇒島根大学⇒KOA株式会社就職

大輪さん 岡谷西部中学⇒弥生高校⇒国土館大学⇒都内で小学校教諭就職

中山さん 東部中学⇒弥生高校⇒成城大学⇒駒ヶ根市役所就職

本当に地域の皆さん、郷土愛プロジェクトの皆さんに育てていただいて、いろいろな学びの中で社会人となりました。これからもよろしくお願いします。

総評



信州大学 学長 濱田 州博

今日も感じましたが、村で小学校・中学校が少ないところは、そこ独自の教育をしているということ強く感じました。私自身は都会出身ですが、都会は、平均値を求めています。特色が出しづらいのです。独自の教育はとても魅力的です。

最近、コロナでオンラインが増えています。やはり今日ここに来て、何かをする意味、人と会う意味があると思いました。リモートでは成り立たないものがあると思います。

今、コロナになって不要不急とよく言われますが、でもそれは肉体的なこと、メンタル的には不要不急がいかに大事かという風に最近感じています。こういう風に来てやるっていうのが大切であります。私は、人に会って情報交換することが仕事、その中で知識をアップデートしています。

先週、池上彰さんと対談をしました。その中で、意見が完全に一致したことは、大学は知識を学んでいくのではなく、いかに学び続けるか、将来いかに学び続けていくかを学ぶ場所であるということです。小学校、中学校でもいかに学び続けるかということを大切にしつつほしいです。

総評



中川村教育委員会 前教育長 下平 達朗

皆様、本当にありがとうございました。こうして実施して、皆様から多くの示唆をいただけたことに感謝しています。コロナの影響で5月実施が延期になり心配していましたが、こうしてできたことに感謝しています。オンラインの大きな力を実感しました。様々な活動は、事業所・地域村民の皆さんの情熱的な取組や支援をいただき、ふるさとのよさを発見するところから出発をしています。

1945年大戦時、東京都世田谷区二子多摩川の尋常小学校の子どもたちが中川村に学童疎開をして、一人も欠けることもなく帰ることができたということから、その保護者の方からお礼とともに7体浄瑠璃人形をいただきました。その人形が由来をしています。それをきっかけに、学童疎開で結ばれた地域の交流として世田谷区と学校交流が続いています。そのご縁で、地域の人形クラブもでき、地域の支えによって続けられてきました。地域の方、情熱やお支えの中から、子どもたちも地域の良さに気付き、郷土愛が育っているのではないかと思います。

万歳



中川村教育委員会 教育長 片桐 敏男

思いのたけは前教育長と一緒にあります。中川村はお力添えいただきましたので、私たちの郷土愛、地域がますます続いていくこと願って 郷土、上伊那、万歳！！！！

(オンラインの皆さんは、オンライン上で万歳)



【基調提案】

中川中学校「私たちの大好きな中川村から、とびっきりの夢と幸せをお届けします」 ～3年間の連続した総合的な学習・キャリア教育の学び～

基調提案者 中川中学校教頭 高宮 明親

中川中学校では、3年間の中学校生活の中で、総合的な学習の時間の系統的に授業内容を組み立て、生徒に「ふるさと中川村」を体で感じてもらう授業が展開されています。1年生は、村内に出て、自分たちで歩き、人に出逢い、話をし、さまざまな中川村を発見する活動を、2年生は、中川村で働く人々姿に触れながら、「働く」ということに焦点を当てた学びを、3年では「中川なかなかいいところ」と題し、それぞれのテーマを決め出し、中川村の素晴らしさを、さまざまな形で発信する活動の紹介がありました。3年生が実際に取り組んできた具体的な活動紹介の中に、自分たちの住む中川村を舞台に活動していく生徒の積極的な学びの姿や、嬉々として地域の方とかかわる生徒たちの姿のなかに、「中川村大好き」が表現されていました。

【学んだこと】交流会後、それぞれが発信した「中川なかなかいいところ」は、村の方々によりパンフレット化されたり、キャリアフォーラムでの発表に繋がったりしたとのこと。生徒の前向きな取り組みが村の方々を巻き込み、村を挙げての「中川なかなかいいところ」へつながったと思います。「子どもたちが地域を動かす！」という力強い学びをいただきました。

中川西小学校「黄金のお米作り」 ～アイガモとともに米作りをした子どもたち～

基調提案者 中川西小学校教諭 上條 菜々美

「どんな米作りをしたいか」を話し合った子どもたちは「黄金の米作り」と称して、アイガモ農法での米作りすることになりました。アイガモと子どもたち、そして米作り・・・、そこに起こるさまざまな出来事を子どもたちは一つ一つ全員の声聞きながら解決していきました。上條先生は、子どもとアイガモと毎日繰り広げられるドラマを「見守る」という支援に徹したそうです。

アイガモとのお別れは、アイガモの命をいただくことの決断でした。先生からは、アイガモさんが肉になるところをしっかりと見届ける子どもの姿に、「命をいただくとはどういうことなのか」「命を学ぶとは何なのか」を子どもたち一人一人が学んだことを確信したそうです。この経験は、6年生になりお蚕を飼う中にも活かされ、中川村での養蚕業の歴史と共に、慈愛の心をもってお蚕様のお世話をしているとの報告がありました。また保護者の方からも、体験活動の大切さや教科書に問われていないことへの学び、自分で問いをつくり解決していく教育の必要性が話されました。

【学んだこと】当日、上條先生は「コロナ禍だからと言って、あれもできないこれもできないではなく、できる方法を考えて子どもと共に歩むことが大事だと考えています。どんな時も子どもの学びを止めてはいけないと思い、日々、教師として子どもの前に立っています」というお話が印象的でした。またこの教師の姿が子どもの豊かな体験を生み、自立の心を育むと感じました。

【公演】出演：中川西小学校人形クラブ・中川人形保存会の皆さん

演目：傾城阿波鳴門 順礼歌の段

【学んだこと】親子の切ない関係を、母親の気持ちに寄り添い、娘になりきっての表現は本当に見事であり、観る者を人形浄瑠璃の世界にいざなっていたいただいた時間でした。心情の理解なくして、あの小さなしぐさはできなかつたと思います。保存会の皆さんが、火を絶やさぬよう、守り受け継いできた文化を、子どもたちに伝承をしている姿にも胸を打たれました。日本文化のよさを改めて学ばせていただいた貴重な時間でした。

柔軟な思考力 判断力

知識 実行力 突破力

学び続ける体

0円食堂 SDGs ①②③

MAP 観光ルート 観光マップ

サイクリスト 呼びこ

中川村大好き

なかなか中川 いいところ。

発信

発見

創造

体験 喜びと 達成 共感

1年 行政 産業 文化を知る

2年 取場 体験 企画 企業 プロボ

3年 探求 的 な学び

中川中学校

生徒ファースト

ゴール自体を自分で考える!!

人生

これからの時代に求められる 資質・能力の育成

- ・継続性のある学び
- ・価値や解はひとつではない
- ・課題解決できる力をつくる

西澤智美さんにグラレコ (グラフィックレコーディング) で記録していただきました!



子どもたちが 体験 主体的に学んでほしい お互いに学び合いたい

ふるさと 地域の方々の支え

再発見 おさなぶり

感謝

発見

発信

創造

この瞬間が 大事

中川西小

5年生23名

やりたい! 知りたい!!

を大切に

コロナに負けない 子どもたちのために!!

集団でいる 動物だから

バラバラにはいけない

養蚕をやりたい

桑畑が減っている 地元産業を知りたい

たくさんの人に知ってもらいたい 他学年に伝える

想像

食べる

いのちを味づく

× 食べない

自分たちで

と畜

体験

馬

馬の命を大切にしたい

馬の根元ミュージアム 岡谷養蚕博物館

五感を使った 地域学習 総合学習

保護者から

Q. シェアが一番知入めたい食材は?

今ココにしかないもの

今ココでしか学べない ことが一番貴重

おぼてが点が線、面になる 考える力が育つ学習



感想（一部）

- 私は上伊那で育ったのですが、上伊那をこんなに思ってくれている人がたくさんいて、とても感動しました。たくさんの方が集まらない中、オンラインでたくさんの方、幅広い年代の方と意見交換ができてとてもいい経験になりました。このような会を開いていただいたことを感謝します。（産業界）
- 様々な立場の方々とお話しができて、大変有意義でした。これからの子供たちのために、各々が自分の使命を明確にしてすべきことをすれば、良い地域づくりができると思います。私は子供たちが将来”入りたい”と思える会社づくりを進めて行きます。（産業界）
- 学校にいただけ、学校関係者と話しているだけでは、世の中や地域のことがわかりません。学校は、生き方・生活の仕方を学ぶところ。もちろんそれは学校だけが担っていくわけではありませんから、子どもの将来、キャリアをどう付けていくか、ライフ&ワークバランスをよいものにしながら生きていくことを教えていく（子どもが学ぶ機会を作っていく）のに、学校以外の方と意見交換をする機会があることは大変ありがたいです。有意義な企画をしていただき深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。（学校）
- キャリア教育の充実のためには、学校の外に出て（あるいは学校外の人を巻き込んで）人や社会とつながる学びを進めていくことが大切になると思います。中川西小学校や中川中学校の実践発表は、まさにそれを体現するもので、大変勉強になりました。教師が個々にそのような学びを構想していくことも大切ですが、誰が担任になってもそれができる仕組みや受け皿を用意しておく必要があると思いました。郷土愛プロジェクトのような産学官のつながりは、下伊那も含めどの地域でも必要だと感じました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。（学校）
- 今回で4回目の参加となります。多くの方との出会いから、刺激を受ける1日となります。個人的には、直接その場へ行き、お話をし、その場の空気感を楽しむことが好きなので、今回のオンラインは、少し寂しい感じはしましたが、やってみて、移動をする時間の省略や中学生が参加できたことは、収穫であったのかなと思います。また、今回同じグループになった方の中に、伊那中時代の教え子がKOAの一員として参加して、一緒にワールドカフェを体験できたのもうれしかったです。（学校）
- 初参加で教育分野に詳しくない自分が参加しても大丈夫なのだろうか、との不安がありましたが、事務局の皆様のお明るい進行と参加されている方の和やかな雰囲気のおかげで、いつの間にか笑顔になっている自分がありました。また、普段なかなかお話しできない方と交流できたことはとても刺激になり、キャリア教育について学ぶと同時に自分自身を見つめる機会にもなりました。（行政）
- 大きな学びをいただきました。産学官と一緒に動くことで、大きなうねりになるダイナミックな取り組み。「こんな状況だからできない」でなく、「こういう状況だからどうすればできるのか」という熱い思いから出発した豊かな発想力。そして、中川村の子どもたちはじめ、多くの人々の温かさや地元を大切に思う営み。そして、郷土愛プロジェクトの皆様のお笑顔と推進力。この会を通じて、様々な方々にお世話になり、つながりができました。ありがとうございました。私自身の財産となりました。（行政）

○基調提案も素晴らしかったですし、人形浄瑠璃も初めて鑑賞させていただきました。素敵でした。

中川中；生徒の皆さんの発想力と行動力に感動しました。大人に向けての、「自分たちが実現したいこの取組に力を貸してほしい」というメッセージに大人がどう応えていくか…大きな宿題をいただきました。中川那西小；素晴らしい取り組み。命に真正面から向き合った心打たれる内容でした。人形浄瑠璃；今後も活躍していただきたいです。

○中川村の地域の人とのつながりや、合鴨農法のこどもたちの主体性を大切に学習、どれも自分の子育てに不足している部分を改めて気付かされ、刺激になりました。人形浄瑠璃の皆さん、伝統を守られ、たくさん練習してきたこと、とても伝わりました。発表、本当にありがとうございました！

自分たちで課題を見つけ、正解のない課題に対して、みんなが納得できる解を探していくという総合的な学習の時間の実践が素晴らしい。その中で地域の人と関わりながら、地域のものやこと知る。このことによって、ふるさとのイメージがつくられ、ふるさとに誇りを持つことにつながるのだと思いました。

○人形浄瑠璃の皆さん、とても素晴らしい発表でした。その根底に、郷土と伝統芸能を大事にし、自分たちも成長している手応えがあるのだと思います。語りと合わせて人形を動かしていくときに、顔の変化はないのに微妙な動きと仕草で、物語と登場人物の気持ちを表現していく、それを3人で連携して観せていく皆さんは、素敵でした。鑑賞させていただき、嬉しかったです。ありがとうございました。

世の中から笑顔が減っていると感じる昨今ですが、皆さんが真剣に夢中になって取り組んだその先に生まれたであろう笑顔を想像するだけで、幸せな気持ちになれました。ありがとうございます。

○中川西小学校の合鴨農法や蚕を題材とした命と向き合う実践、そして中川中学校のふるさと中川をテーマにしたそれぞれのプロジェクトの実践はとても興味深いものでした。身近にあるものを材として取り上げ、学校のみならず保護者や地域を巻き込んで活動を進め、学びを深めている姿に感動しました。「地域を愛する心」というのは、一朝一夕に育つものではありません。地道な活動の積み上げの中で、徐々に子どもたちの心の中に芽生えてくる地域への理解や愛着が、キャリア教育の基礎となっていくのだと思いました。

○中川中学生の3年間の連続した総合的な学習の中で、0円食堂や村の観光マップ作り、サイクリストを呼び込むための周遊コースのマップ作りなど、村の課題を発見したり村のいいところを発信しようと行動していることに驚きました。果たして自分が中学生の頃、地元のことをどれくらい知っていたのか、問題意識を持っていたのかなど、恥ずかしい限りです。中川西小学校のアイガモとともにお米を作った小学生のお話では、実際に地域の人たちにアイガモ農法を教えてもらい、豊作を願う行事(おさなぶり)などの体験を通じて命の大切さを学んでいる様子がとても印象的でした。「こどもたちの体調が最優先であるが、コロナだからと言って諦めない姿勢も大事。教えるのではなく、共に学び、お互いの学びを高めることができる教師と子どもの関係でいたい。」との担当の先生のご発言にも感動しました。最後に、人形クラブ中川人形保存会の皆さまによる人形浄瑠璃では、繊細な動きを皆で阿吽の呼吸で表現されている姿に、「中はどうなっているんだろう、指や体をどう動かしているんだろう。」と疑問を持つと同時に、きっとたくさん練習してこられたんだろうなあ、と思いました。お母さんと娘さん(合ってますか?)のお別れの瞬間は、自分が大学進学で上京する際の母やその時の自分の気持ちを思い出し、うるうるとしちゃいました。貴重な機会をありがとうございました。



青石ぼろみ

ライター・イラストレーター・インタビューフリー素材イラストサイト『イラストの里』インタビューメディア『Nenrin』を運営。好きなものは健康ランドと寿司とボンデケージョ。

～今回ならではの！～

県外からオンラインで参加して下さった「青石ぼろみさん（ライター）」と「甲斐陽子さん（大学キャリアアドバイザー）」のお二人がブログやフェイスブックで感想をあげてくださいました。

こちらの交流会は、長野県上伊那地域を中心とした産学官のみなさんが集って学び、意見交流を行う会となっています。（産学官とは、産業の『産』。学生、教育者、保護者の『学』。行政の『官』のみなさんのことを指すそうです。）

郷土愛プロジェクトの一環として、7年前から年に一度行われているこちらの交流会ですが、今年は『With コロナ時代、ふるさとの未来づくりをどうしていくのか』といったテーマを持って開催されました。

私自身は、岩手県大船渡市に生まれて8歳まで過ごし、その後は仙台で育ちました。長野県上伊那郡には地の利がない中での参加でしたが… **本当にすごい交流会でした。**

上伊那の人たちの想いや活動、文化まで知ることができて、なんども目頭があつくなった。

平日の昼間にも関わらず、200人以上の産学官のみなさんが集い、上伊那と子どもの未来を考えました。

「個人のキャリアにとどまらず、次の世代まで語り継がれていくキャリアをつくる！」といった視点が、私にとっては新しく、より大きいビジョンで物事を考えるきっかけを与えてもらいました。

意見交流セッションで皆さんとお話する中で気が付いたのは**「子どもたちに郷土愛を伝え、残したいと思っている理由は、なにより大人たちが郷土愛を持っているからなんだ。」**ということ。

最後の意見交流セッションで

「みなさんが考える“郷土愛”とは何ですか？」と質問をさせていただきました。

「地元で一生を過ごす人も、ほかの県へ行く人もある。その中で戻ってきたい、私はここで育ったのだと思える場所があること。」

「うまれた土地の記憶は、いつまでも色あせないもの。あの角を曲がればこんな景色が見えて…といったように、ふるさに住んでいても、ふるさとかから離れた外の地で過ごしていても、心のすぐそばにあるものが郷土愛ではないか。」

こんな意見をいただいて、キラキラした宝石を見つけたみたいな気持ちになり、戻ってきたいと思える場所づくりを、こうしてされているんだ、と思い胸があつくなりました。

ちなみに私が思う郷土愛は、自然への敬愛（畏怖にも近い）と、家族のあたたかさです。

手つかずの広い海に囲まれて育ったので、自然には絶対になかない、神様のようなものだと、子ども心ながらに思って生きていました。（3.11では、本当に悲しかった）

今年は、コロナの影響で帰省できておらず、故郷に帰ることができない寂しさを感じることがありますが、交流会をとおして「その中でできることもあるのではないか」と勇気をもらえました。

上伊那の郷土愛にふれ、そこに生きる人たちとのつながりを感じることができた交流会。100人以上の人たちがZOOMに同時接続していたうえで、こんな風に一体感を生み出すことができるのか！といった感動もあり、可能性を見せていただいた気分です。みなさん良い顔をされていて、毎年参加されている方ばかりというのも頷けます。

感動した場面と気がきがすごく沢山あって、まとめるのが難しいくらい、大きなものを受け取りました。

素晴らしい機会をくださって、本当にありがとうございました！



甲斐 陽子

2020年10月19日

👉 go to キャリア教育 👈

今日は、大学は有休を頂いて、
長野県上伊那地域の郷土愛プロジェクト主催
第7回キャリア教育産学官交流会
「withコロナ時代、ふるさとの未来づくりを
どうしていくのか」にオンライン参加😊

本当に驚きました💧

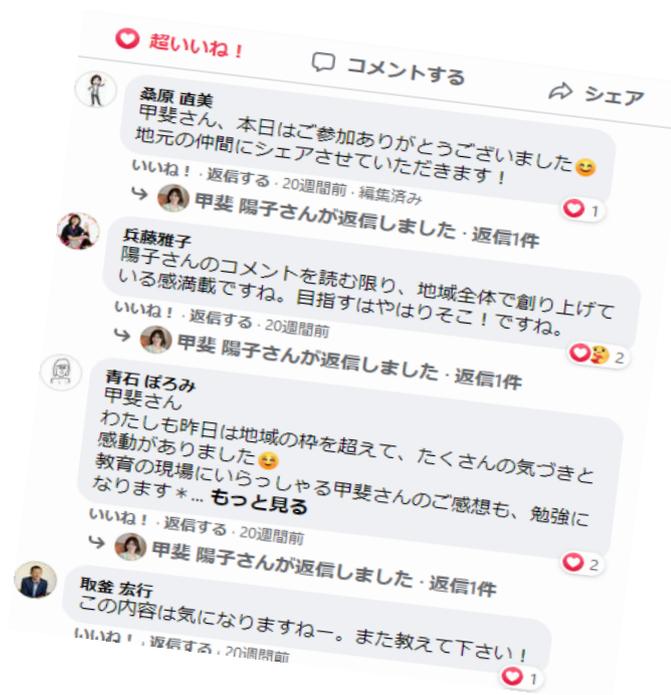
中学の基調提案の内容では、生徒ファーストの視点で、ゴール自体を
生徒が自分で考え、活動単位はチームでも個人でもオッケー👏
キャリア教育といえば、企業やコーディネーターが入るイメージがあ
りましたが、
生徒たちと先生が主体的に話し合って行動に移すことで、より考える
力を引き出していたこと🌟

また、100人の参加者を20グループに分けて、ディスカッションする
際には、平日午後なのにファシリテーターが町役場の職員さんだつたり、
グループ内に市教委職員や先生、企業社員、大学生やPTAなど、
本当に地域を挙げて、熱意を持って取り組んでいるのが伝わりました
🌟

改めて、

子どもたちは、本来学ぶ力を持っている。

体験が減っているコロナ時代だからこそ、
出会いの場・学びの場を止めてはいけないと感じました😊



総括

第7回キャリア教育産学官交流会のふり返り

～アンケート（提出数50）及び事務局会議より～

1 成果

①基調提案から学ぶところが多かった。

主体性やふるさとを舞台にした活動の大切さについて

②ハイブリット開催

現状の中で工夫して事業を実施する大切さやオンラインのメリット

③多様な方との意見交流の必要性・ワールドカフェ方式の良さ

様々な人との出会いや学びの場になった。ご縁やアイデアが生まれた。オンライン上でも交流ができた。

グループリーダーとしての繋がりや学びがあった。

④中学生の参加 若者参画と意見交流の機会になった。今後も続けてほしい。

⑤飯田・県外からの多数参加 伊那谷として考えていく必要性、他地域からの学びや客観的評価

⑥会を続けてきた成果が現れてきた。 小中高大、そして社会へのつながりが見えてきた

2 課題（今後の可能性）

①オンラインの難しさ

幅広い交流や現実的な継続的なつながりが生まれにくい。やはりリアルがいい。接続の技術面等

②参加者数、対象、開催時期、全体構成等

今後どのような規模で、どのような方により多く参加してもらうのがいいか。

③運営・推進体制

郷土愛PJメンバーの推進体制、継続体制をどのようにしたらいいか。



withコロナ時代 『ふるさとの未来づくり』を どうしていくのか…

第7回 キャリア教育産学官交流会 in 中川村

開催日/2020年10月19日(月) 主会場/中川文化センター 主催/郷土愛プロジェクト

テーマ「みんなで育てよう 地域の子ども 郷土愛」

毎年この交流会は、上伊那8市町村で持ち回りながら、各地域の事例を学び、産学官で意見交流することを大切に開催してきました。しかし、今年は、コロナ禍という想定外の事態が発生し、多様な人との意見交流が危ぶまれる状況になりました。しかし、悩みながらもこんな時こそ「意見交流することが大切である」という原点に戻り、実施する「手段」を工夫することに！当日は、オンライン参加を中心に上伊那地域のみならず全国から230名を超える多くの皆さんに参加いただきました。中川村の素晴らしい事例や中川中学校3年生のオンライン参加等に支えられ、笑顔と学び溢れる時間になりました。



基調提案

- 中川中学校3年生は、1・2年生の学習を活かし、日本で最も美しい村をより多くの方に知ってほしいという願いのもと、「中川村0円食堂」「中川そぞろ歩き」など自分たちで決め出した課題を村の人に直接触れ合いながら取り組んだ様子を紹介しました。
- 中川西小学校6年生の子どもたちが、「アイガモ農法による米作り(5年)」「蚕の飼育(6年)」を通して「命の大切さ」を学んでいく過程の実践発表がありました。保護者からは「起きた課題を互いの考えや知恵で解決していくこそが学び」という発言がありました。
- 中川西小学校人形クラブは「人形浄瑠璃 傾城阿波鳴門-順礼歌の段-」の上演をしました。保存会の方の義太夫に合わせ、演じ手の子どもたちと登場人物が一体となり、その時々の子どもの心情を、細かなしぐさの中に見事に表現され、観る者は心惹かれました。

郷土愛プロジェクト
HP

詳しくは下記からご覧ください。
<https://inadani-kyodoai.jp/>
 郷土愛プロジェクト 検索





10月19日(月)に延期になっていた「キャリア教育産学官交流会」が中川会場とオンラインのハイブリット開催でした。今年は、231名の皆様の参加をいただきました。会場には、太田副知事、信州大学学長、中川村村長、信濃教育会長の来賓をはじめ、本年度は、飯田市教育委員会、南信州地域振興局、下伊那教頭会からのご参加をいただきました。オンラインでは、広島、横浜など日本各地からのご参加もいただき、オンラインのよさが活き、また多様な方々のご意見を伺う機会となりました。同時に、上伊那の産学官が一つになって取り組んでいるキャリア教育の発信にもつながりました。

中川村様には、昨年度の準備段階から、本当に村を挙げて開催についてご準備いただきました。御礼申し上げます。

ご参会いただきました皆様、ご多用の中ありがとうございました。アクション起こしていますか？またお会いできる日を楽しみにしています。



2020.10.19 中川村発 第7回キャリア教育産学官交流会

【いただいた感想】

先日は「withコロナ時代、ふるさとでの未来づくりをどうしていくのか」第7回キャリア教育産学官交流会に参加させていただき、厚くお礼を申し上げます。コロナ禍の中で地域や学校の行事等が中止、縮小している今、郷土愛プロジェクトの皆さまの熱意が伝わってきました。あまりの感激で、足取り軽やかに帰路につきました。

中川西小学校のアイガモ農法や蚕を題材とした命と向き合う実践、そして中川中学校のふるさと中川をテーマにしたそれぞれのプロジェクトの実践はとても興味深いものでした。身近にあるものを材として取り上げ、学校のみならず保護者や地域を巻き込んで活動を進め、学びを深めている姿に感動しました。「地域を愛する心」というのは、一朝一夕に育つものではありません。地道な活動の積み上げの中で、徐々に子どもたちの心の中に芽生えてくる地域への理解や愛着が、キャリア教育の基礎となっていくのだと思いました。

キャリア教育の充実のためには、学校の外に出て（あるいは学校外の人を巻き込んで）人や社会とつながる学びを進めていくことが大切になると思います。中川西小学校や中川中学校の実践発表は、まさにそれを体現するもので、大変勉強になりました。教師が個々にそのような学びを構想していくことも大切ですが、誰が担任になってもそれができる仕組みや受け皿を用意しておく必要があると思いました。郷土愛プロジェクトのような産学官のつながりは、下伊那も含めどの地域でも必要だと感じました。キャリア教育は、地域とのかかわりなくして語ることはできません。自分の身近な地域のもの・こと・ひとから学ぶことは多いです。それが実感できた今回の視察研修でした。半面、我々教師は、「学校での学び」が社会を支え、活用され、私たちの暮ら

しを支えているという認識で子どもたちに接していきたいと考えます。





テーマ：みんなで育てよう 地域の子ども 郷土愛
 ～WITHコロナ時代、ふるさとの未来づくりをどうしていくのか～

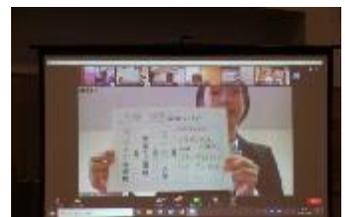
▶私は上伊那で育ったのですが、上伊那をこんなに思ってくれている人がたくさんいて、とても感動しました。たくさんの方が集まらない中、オンラインでたくさんの方、幅広い年代の方と意見交換ができてとてもいい経験になりました。

▶様々な職種、年齢の方たちと話す機会があったことは貴重な経験となりました。また、自分はまだこの土地に来て半年ですので、長く住まわれている方々や、自分のように移り住んできた方の想いを直接お聞きできたことは大変喜ばしいことであると感じています。

▶普段つながりをもたない分野の方と意見を交換することができ、非常に貴重な体験となりました。特に中学校の生徒さんの声を直接聞くことができたのは、とても興味深かったです。ふるさとの未来を考えるにあたって、今後を担う若者の率直な意見はとても参考になると感じました。Uターンの学生が現実となり7年間の活動の成果がリアル化され嬉しかった。継続は力なり。

▶コロナ禍での開催でしたが、目的を達成するため手段を見直すことは、行事や業務にも通じる考え方だと思いました。

▶オンラインでありながら、会に参加している高揚感がありました。それぞれの発表も大変中身が濃いもので、参考になりました。



広報かみいな

2021.1
Vol. 85

上伊那の人口 / 182,378人
(男・89,770人、女・92,608人)
世帯 / 73,897
(令和2年12月1日現在)

第7回 キャリア教育産学官交流会 in 中川村



CONTENTS

- 新年のごあいさつ・広域連合議会11月定例会
上伊那広域連合人事行政の運営等の状況 — P1-2
- 第7回 キャリア教育産学官交流会 in 中川村 — P3
- 上伊那魅力再発見 ツアー 体験報告 — P4
- ごみ減量アイデア大募集! — P5
- 上伊那広域消防本部からのお知らせ — P6
- GoToトラベル 事業支援対象 上伊那魅力再発見ツアー — P7

中川西小学校 人形クラブ
第7回キャリア教育産学官交流会in中川村にて(人形浄瑠璃 晴城阿波鳴門 順礼歌の段)の演劇を行いました。
本日の産学官交流会は、開催が実現に繋がらず、多様な人が交流する本日の目的は、達成しませんでした。
実行 上伊那広域連合
〒998-0025
会務課事務局(TEL) 0265-78-2500 FAX 0265-78-2501
TEL 0265-78-2500 FAX 0265-78-2501
E-mail: info@upinadani-kyodoai.jp
http://www.upinadani-kyodoai.jp/



with コロナ時代、
ふるさとの未来づくりを
どうしていくのか

未来を決めるのは、私たちの今の行動です。
伊那谷で活動する多様な人との連携が、
今日から始める行動につながり、
「つながり」が未来の未来づくりの機会になります。
ぜひ、
どう受け止め、何ができるのか
ピンチをチャンスに変える未来づくりへ。

● 今年中は川村を舞台に
● 双方向型オンラインを活用
● 気軽に参加できる!

日時 2020年10月19日(月) 13:30～17:00
(開場 12:30～)

会場 オンラインで開催 (Zoom) 申し込み後に ID 等連絡
※通信環境がない方は要配慮

【内容】オンライン交流会 Zoom 使用

12:20～開場 (WEB入室開始・受付)
13:30～14:00 オープニングセレモニー
14:00～14:40 基調提案 (各20分)
① 中川中学校 3年 ② 中川西小学校 6年
14:50～16:25 交流のためのワークショップ
(オンラインワールドカフェ 30分×2部)
中川西小学校人形浄瑠璃上演 (20分)
16:35～17:00 未来セッション クロージング

参加者 上伊那地域を中心とした産学官関係者及び保護者、住民の方
主催 郷土愛プロジェクト 会長 向山 幸一 (KOA株式会社取締役会長)
事務局 上伊那広域連合 地域振興課
共催/中川村教育委員会 後援/中川村、中川村工芸会、上伊那親睦会、(一社) 駒ヶ原青年会館
(一社) 伊那青年会議所
連絡先/上伊那広域連合 Tel: 0265-78-2500 mail: career@upinadani-kyodoai.jp (請求/お問い合わせ)

産学官が連携したキャリア教育の事例として中川村の取り組みの発表があります。

人形浄瑠璃上演について

【項目】
自分や地域の未来と、いかに関わりあうのか
傾城阿波鳴門 順礼歌の段

中川西小学校の中川人形クラブは、中川人形保存会の指導に支えられて活動しています。人形を動かす、演技をこなすことがとても大変ですが、なかなか上手にできず、学校のクラブの顧問以外にも多くの公民館で行われている中川人形保存会の集まりに参加し、練習を重ねてきました。当日は、出演人物の「侍」とその旗「お節」の柄を動かす演技で、人形を動かします。演じてご観覧ください。

基調提案について

中学校演題「私たちの大好きな中川村から、
とびきりの夢と幸せとお届けします」
～3年間の連続した総合的な学習・キャリア教育の学び～

小学校演題「黄金のお米作り」
～アイガモとともに米作りをした子どもたち～

基調提案者 中川中学校教員 高宮 朝枝
基調提案者 中川西小学校教員 上藤 繁幸

1年生では、全県初めた「中川」の様々なこと
を調べ、心と体でその魅力を再発見し、2年生では、
調べたことに基づき事業や地域振興策を立案し、さらに
深く、中川村で働くことの意味や働き方を学びまし
ます。そして、ここからが私たちの発展の足場です!!
「中川でやりがい」、「中川を愛する」、など、私たちを育ててくれた村のために新しい内容を企画し、実際の活動で日本でもっと美しい村、の魅力を人々に発信します。

「黄金のお米作り(1)」そう簡単にはできません。アイガモを飼育することに決まりました。しかし、今までとは違うやり方に対する保護者の不安、アイガモ農薬に敏感な数々のバリエーション、収穫をえん
なアイガモを育てることに決まりました。子どもたちや保護者の思い、多くの学びがありました。そんな中で、保護者や地域の力に支えられてきたアイガモを育てることに決まりました。子どもたちの学びの姿が伝えています。

交流のためのワークショップについて

内容
基調提案を踏まえて、「with コロナ時代、ふるさとの未来づくりをどうしていくのか」を軸に、参加者それぞれの立場から伊那谷のキャリア教育や次世代育成に対して、できることや目指したいあり方などについてオンライン上で自由に意見を交わします。

申込方法 申込締切: 10月5日(月)

インターネットからの申込方法

【第7回キャリア教育産学官交流会参加申込】

①「郷土愛プロジェクト」HP トピックス欄
<https://inadani-kyodoai.jp/>

② 参加申込フォーム

申込入力はお一人ずつです。インターネットからの申込みが難しい場合や、通信環境のない方は、上伊那広域連合 (0265-78-2500) までご相談・ご連絡ください。

交流会の目的
産学官の交流を通して、
上伊那地域 定域 地域 産学官関係者 行態が一体となり、
ふるさとを育てることに、
よりよい次世代育成や地域づくりを推進する機会とする。

郷土愛プロジェクト

郷土愛プロジェクトとは 「地域に学び 地域をつくる 地域のかでふるさとの未来をつくる」 思いのもと、上伊那8市町村の産学官組織が構成団体となり、従来の枠組みを超えて協働しながら、次世代育成や地域づくりを推進しているプロジェクトです。

構成団体 長野県経営者協会 上伊那支部、伊那商工会議所、駒ヶ原工芸会、長野県農工商連合会 上伊那支部、長野県教育委員会、県民教育研究所、上伊那市町村教育委員会連帯協議会、上伊那校長会、上伊那地区高等学校校長会、信州大学、上伊那8市町村教育委員会、長野県テクノロジー、上伊那PTA連合会、上伊那広域連合